



皆さんも、曲を作る行程に参戦を！ (自信を持って！)

6月26日の練習から

発声:

- ・遠くで合わせよう。
- ・ハミングは、天井を持ち上げ、鼻の穴から鼻水が通る道中を開けて、歯を付けず上に向かって 息を吐く。(口を少し開けてもいい。)

かたつむり:

- ・繰り返して1が終わったら、2に飛ぶことを忘れずに。
- ・(でんでん)のNは、飲み込まず自然に歌う感じで。
- ・速い速度ではないが、推進力を失わずに、一定の速度で。



ふるさと:

- ・少し前向きに歌い、ゆっくりしすぎない事。しかし、ゆったり歌おう。
- ・4小節単位で歌うこと。

こがねむし:

- ・4分の2拍子。1と2とで1小節。なので、すぐ通り過ぎるので注意。
- ・ピアノに引っ張られている感じ。一緒に曲を作る行程に参戦を。(自信を持って)
- ・音楽に乗っかるといいな！

しゃぼんだま: ・スローでノスタルジックに



「証城寺の狸林」伝説は！

「証城寺の狸林」は「分福茶釜、ぶんぶくちやがま」(群馬県館林市)「八百八狸、はっぴやくやたぬき」(愛媛県松山市)と並び、日本三大狸伝説の一つに数えられているそうです。

「証城寺の狸林」は、野口雨情作詞、中山晋平作曲の日本の童謡。野口雨情が、千葉県木更津市を訪れた際に聞いた伝説をもとに作詞したものといわれています。

その伝説とは、(ある秋の晩、証城寺の庭で何十匹の狸が、ポンポコと腹鼓をしながら楽しそうに踊っていた。これを見た和尚さんが負けじと自慢の三味線でお囃子を始めると、狸も負けじと大きな音で、腹鼓を叩く。

頑張りすぎた狸は、翌朝、腹が破れて死んでいた。不憫に思った和尚さんが供養のため狸塚を作った。)という伝説です。

証城寺は、江戸時代初期の創建で、木更津では唯一の浄土真宗の寺。当初は上方から海を渡ってやってきた海運関係者や商人が檀家になっていたとのこと。雅楽などを用いた法要が村人の耳に不思議に聞こえて、話題になりいつしか「狸林伝説」がうまれたのではないかと推測されているそうです。(ネットより)

(連絡) 8/28 の練習は、朝日公民館、講座室 19:00~21:00